

## 今日のみことば

### □ 4月23日(日) コロサイ 2章

キリストこそが神の奥義であり、キリストのうちには、知恵と知識との宝がいっさい隠されている。だからこの世の空しい哲学にだまされしないで、キリストにあって歩むべきです。

### □ 4月24日(月) コロサイ 3章

キリスト者は新しい人だから、新しい着物をまとうべきです。それは憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容です。これらに加えて愛を身につけなさい。

### □ 4月25日(火) コロサイ 4章

最後のパウロは祈り続けることと、信仰者のかしくして慎重な発言を勧めます。そして最後の別れのあいさつを述べるがそこで述べることばに感動を呼び覚まされる。

### □ 4月26日(水) テサロニケ第一 1章

パウロの手紙の中で一番古いものです。目的は迫害に直面しているテサロニケの人たちを勇気づける共に、主の再臨についての誤りを正すものでした。

### □ 4月27日(木) テサロニケ第一 2章

パウロは福音を与えるだけではなく、彼自身をも与えた。それは子を思う母親を思わせる。パウロがどれほど回心者を愛していたか、お互いの愛、神の栄光への関心がうかがわれる。

### □ 4月28日(金) テサロニケ第一 3章

パウロは再度テサロニケの人たちと会いたいと熱望していた彼ら回心者のためにどれほど心を砕き、彼らのために労していたかがうかがい知られる。

### □ 4月29日(土) テサロニケ第一 4章

パウロはテサロニケの信者が、ますますきよい生活に進むように求めました。主の再臨の時の不安について、パウロは主の大いなる再臨の出来事について確実な説明を与えた。

## ろば No. 1812

2017年 4月23日  
日本バプテスト 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

ルカ24:32

二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。

イエスの弟子であった二人が所用でエマオへ行く途中での話題は教師であったイエスの十字架の死の出来事でした。世の救い主と目されていた方の壮絶な死の出来事でした。しかもそのイエスの遺体は墓にはなく、復活されたという信じがたい知らせに、心重い会話を交わしながら歩いていた彼らの仲間に、イエスが加わられました。何事の話かと聞かれて、彼らがいきさつを話すと、イエスは「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか」と言われて、モーセから初めて聖書全体を通して、ご自分について書いてあることを説明されました。それは

彼らの重い暗い気持ちをぬぐい去ってくれる言葉でした。彼らはもっと話を聞きたいと、一緒に宿屋に入りました。

彼らの暗い沈んだ心に元気がよみがえってきたのは、イエスがしっかりと聖書全体から、この出来事を説明してくれたことにありました。私たちが忘れてはならない大切なことです。私はこの大きな悲しみを、み言葉によってぬぐわれ元気を回復させられた出来事は、私たちにも当てはめられることです。神は愛です。み言葉のひとつ一つにも私はそれがこもっていると信じています。だから私たちも、心を込めて聖書を読むのです。その時神は、最上の道へと私たちを導いて下さいます。

もう一つ大事なことがあります。二人の弟子が暗い気持ちで会話をしながら歩いていたとき、イエスの方から近づいて来て下さったと言うことです。私たちは祈ることを知っています。私たちが祈るとき、主はその声をしっかり聞いて下さいます。だから私たちは思いのたけを祈るのです。詩篇を読んでみてください。詩人の喜びや悲しみや苦悩、思いのたけが歌われています。神はそれらの一切をしっかり聞き取って下さったお方ですから私たちは祈るのです。

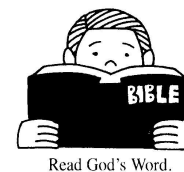
その時、私たちの心は「燃え」ます。二人の弟子はイエスが去られたとき「道で話しておられるとき、また聖書を説明してください」と語り合いました。私たちは知っています。み言葉を読み解くとき、神がいかにか私を愛しておいでになるかをひしと感じさせていただくではありませんか。そしてイエスの慈しみを心に受け止めさせていただくのです。

私はイエスが「聖書を説明してください」という二人の言葉は大きなヒントです。私たちを生かすのはみ言葉です。み言葉には力があります。しっかり聖書を開き、権威ある言葉に聞かねばなりません。リンカーンの母は、彼が少年時代にマラリヤに冒されて天に召されましたが、臨終の席で「エブよ、この聖書はお前に残す唯一の遺産だよ」といって愛用の聖書を渡しました。リンカーンの人格はこの聖書よるところは大です。彼は神の言葉に励まされて前に進んで行き、米国の大統領になりました。み言葉は私たちの心を燃やし、大いなる主のご栄光を表すものとしてくれるのです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————  
使徒言行録8:4-8 証しの動機。

イエスは山上の説教で、私たちが行動するそれには、しっかりとした動機付けの必要なことを告げられました(マ16:1-18)何事においても、私たちの行動には理由があります。エルサレムの信者たちはステパノの殉教によって激しくなった迫害の手を逃れて、散って行きました。その行く先々で彼らは、福音を告知らせながら巡り歩きました。迫害でエルサレムから逃れた彼らは、それでも信仰を捨てずに、福音を語り、主にあつて力ある業を行って主を証しました。

何が彼らを福音宣教にこだわり続けさせたのでしょうか。私はあのペンテコステの日のペテロの説教に原因をみさせていただくのです。ペテロが告げた主イエス・キリストの出来事は彼らの心に深くとどまり続けました。神が何をして下さったかを理解するとき、その喜びのおとずれを、語り証しをせざるを得なかったと言うことです。



次週の聖書・説教	コリント第一15:1-22 キリストは復活された
----------	--------------------------